

I. だれもがともに暮らせるまちづくり

計 画 項 目	ニ ー ズ 調 査 の 結 果 と 課 題	記号	
1. 障害についての理解と支えあいの推進	(1)障害についての理解の推進 1) 障害についての啓発と交流の推進 2) 福祉教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が「近所の人と親しくつきあっている」人は18.7%、「あいさつ程度」のみの人（親しくつきあっているとの重複は除く）は35.2%、「つきあいがほとんどない」人は37.3%（無回答も5.9%）（問26） ・地域の人に「障害について理解してほしい」と思う人は38.1%、「行事などを通じて交流したい」人は11.6%だが、「緊急時に手助けしてほしい」人は43.8%（問27） →「障害について理解してほしい」は、発達障害は51.9%、知的障害は51.3% ・「障害や介護の負担についてまわりの理解が得られない」と思う介護者は9.9%（問12） ・療育・教育に関して「地域の子どもとともに育つことが難しい」と思う人は13.0%（問29） ・仕事に関して「職場の人の理解や人間関係」で困る人は22.0%（問31） → 発達障害は49.0%、高次脳機能障害は45.0%、精神障害は33.2%、聴覚・言語障害は29.2%、知的障害は24.7% ・社会参加等の活動で「他の参加者（健常者）の理解や人間関係」で困る人は22.4%（問33） <p>【課題】・交流が少ない現状もみられるが、障害種別ごとにさまざまな場面で、障害についての理解が求められている。</p>	1 A ～ B
	(2)地域で支えあう活動の推進 1) 障害者を支援する地域福祉活動の推進 2) 当事者活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に「緊急時には手助けしてほしい」人は43.8%、「日常的に手助けしてほしい」人は8.6%（問27） ・今後参加したい活動で「ボランティア・NPO等の社会活動」は3.3%、「自治会等の地域活動」は1.7%、「活動に参加したいができない」人が18.8%、「参加したいと思わない」人が36.7%（問32） <p>【課題】・地域の人々の日常的な手助けを希望する人もいる。 ・担い手として活動したいという意識も示されているが、参加したくてもできない人もいる。</p>	1 C ～ D
2. 快適で安全な生活環境整備の推進	(1)だれもが利用しやすいまちづくりの推進 1) 都市施設のバリアフリー化の推進 2) 障害者等に配慮した交通の充実 3) 情報のバリアフリー化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・外出で困るバリアは「道路のバリア等」32.8%、「自動車や自転車のマナー」32.4%、「コミュニケーション」19.1%、「公共交通」19.0%、「移動の経済的負担」17.8%、「外出支援が利用しにくい」9.7%、「建築物のバリア」7.1%、「駐車場」5.1%（問34） → 視覚障害、肢体不自由は「道路のバリア等」、聴覚・言語障害、知的障害は「コミュニケーション」、発達障害、精神障害、内部障害、高次脳機能障害は「マナー」が第1位 ・医療で困ることで「通院時の移動」は23.6%（問18）、仕事で困ることで「通勤の負担」は11.9%（問31）、社会参加活動で困ることで「移動の負担」は19.0%（問33） ・災害時に「情報が得にくい」ことで困る人は20.2%（問35） → 聴覚・言語障害は42.7%、知的障害は27.6% <p>【課題】・障害種別によって、物理的な段差等、情報・コミュニケーションや市民の理解などのさまざまなバリアが、生活のさまざまな場面で生じている。</p>	1 E ～ G
	(2)安全なまちづくりの推進 1) 防災対策の推進 2) 防犯対策の推進 3) 交通安全対策の推進 4) 徘徊行動のある人への支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に困ることは「避難所での生活」45.2%、「機材や薬の確保」40.9%、「自力での避難」29.5%、「情報取得」20.2%など（問35） → 知的障害、発達障害、肢体不自由、高次脳機能障害は「避難所での生活」、精神障害、内部障害は「機材や薬の確保」、視覚障害は自力での避難、聴覚・言語障害は「情報取得」が第1位 ・地域の人に支援してほしいことで「緊急時の手助け」は43.8%（問27）、現在相談したいことで「災害時への備え」は16.0%（問21） →「緊急時に地域の人に手助けしてほしい」人は、視覚障害が62.4%、知的障害が54.4%、肢体不自由は49.2% ・避難行動要支援者登録を「している」人は10.5%、「対象だがしていない」人は8.6%（問36） ・救急医療情報キットを「利用している」人は4.9%（問37） ・優先的に取り組むことで「災害、犯罪、事故から安全なまちづくり」は29.3%（問41） → 視覚障害は50.5% ・外出で困ることで「通りにくい・危険な道路」が32.8%、「自動車等のマナー」が32.4%（問34） <p>【課題】・災害に対して、多くの人が不安を感じており、地域の人に支援してほしいと思う人も多いが、要支援者登録はしていない人も少なくない。 ・防犯や交通安全の取り組みも求められている。</p>	1 H ～ K

Ⅱ. 一人ひとりの思いや力を活かすしくみづくり

計 画 項 目	ニ ー ズ 調 査 の 結 果 と 課 題	記号
<p>1. 生涯を通じた発達と学習への支援の充実</p>	<p>(1)継続的な支援のしくみづくり 1)発達や療育を継続的に支援するしくみの構築</p> <p>(2)障害児の療育・教育の推進 1)早期療育と障害児保育の充実 2)支援教育の充実 3)高等教育の推進</p> <p>(3)生涯学習の推進 1)生涯学習・スポーツ等の推進</p> <p>(4)自立生活に向けた支援の推進 1)自立生活に向けた支援の推進</p>	<p>2A ～D</p> <p>2E</p> <p>2F</p>
<p>2. 就労や社会的活動への参加の推進</p>	<p>(1)一般就労の推進 1)就労に関する相談支援の充実 2)就労のための訓練等の充実 3)就労の場の確保 4)就労への定着のための支援の推進</p> <p>(2)福祉的就労や日中活動の推進 1)福祉的就労の推進 2)日中活動の推進</p>	<p>2G ～L</p>
<p>3. 身体とこころの健康づくりとリハビリテーションの推進</p>	<p>(1)保健・医療・リハビリテーションの推進 1)健康の保持・増進への支援 2)障害のある人への医療の充実 3)リハビリテーション医療や機能訓練の充実 4)障害の原因となる疾病等の予防の推進</p>	<p>2M ～P</p>

Ⅲ. 自分らしい生活を支えるサービスづくり

計 画 項 目	ニ ー ズ 調 査 の 結 果 と 課 題	記号
1. 情報提供と相談支援の充実	<p>(1)情報提供と相談支援の充実</p> <p>1)情報提供の充実 2)多様な相談支援の場づくり 3)相談支援ネットワークの充実 4)ケアマネジメントの充実 5)的確なサービス支給決定の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報の取得は「テレビ・新聞等」67.5%、「パソコン・スマートフォン」28.1%、「専門機関等」24.9%、「市の広報・ホームページ」24.6%、「当事者団体・仲間」11.9%（問19） →「パソコン・スマホ」は、65歳以上では7.1%、知的障害は14.2%、視覚障害は21.8% 障害等に関する相談相手は「家族・親族」71.8%、「市役所」24.1%、「福祉事業所」23.0%、「友人・知人」22.3%、「医療機関」17.5%、「相談支援事業所」12.7%など（家族、近所、知人等のみの人が34.0%）（問20） →精神障害は「医療機関」が30.8%、18歳未満は「学校・保育所・幼稚園」が42.8% 現在相談したいことは「介護」17.7%、「健康・医療」17.6%、「就労」16.3%、「災害への備え」16.0%、「療育・教育」6.6%、「虐待・権利擁護」2.1%（問21） →18歳未満は「療育・教育」、18～39歳は「就労」、40～64歳は「健康・医療」、65歳以上は「介護」が第1位 →相談相手が家族、近所、知人等のみで、現在相談したいことがある人が13.6% 福祉サービス等の利用に関して困ることでは「情報が得にくい」16.7%、「相談するところがない」3.9%（問24） →「情報が得にくい」人は、発達障害が30.8%、高次脳機能障害が25.0%、知的障害が20.9% <p>【課題】・障害種別や年齢でのニーズの違いに応じた内容や手法での情報提供が求められている。 ・相談に関して公的な機関とつながりがない人も多いが、さまざまな相談のニーズがある。</p>	3A～E
2. 生活を支援するサービスの充実	<p>(1)地域での生活や介護を支援するサービスの充実</p> <p>1)生活や介護を支援するサービス等の充実 2)家族介護者等への支援の充実 3)余暇活動への支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護・支援が必要なことは「家事」が46.8%、「服薬管理・手続き等」が41.4%、「外出」が40.6%、「介護」が28.3%、「意思疎通」が27.5%など（問11） →視覚障害は「外出」、聴覚・言語障害、発達障害は「意思疎通」、肢体不自由、内部障害、精神障害は「家事」、知的障害、高次脳機能障害は「服薬管理・手続き等」が第1位 介護で困っていることは「身体的・精神的負担」が21.3%、「緊急時の支援」が15.7%、「介護者が高齢」が15.5%、「他のことができない」が15.3%、「経済的負担」が12.2%など（問12） →いずれの年齢も「身体的・精神的負担」が第1位で、39歳以下は「他のことができない」が第2位、40歳以上は「介護者が高齢」が第2位だが、「介護者が高齢」は18～39歳でも18.8% 今後、新たに利用したいサービスは「移動支援」が13.6%、「居住の場」が10.0%、「コミュニケーション支援」が9.8%、「短期入所」が7.0%、「訪問介護等」が6.9%、「通所」が6.2%、「補装具等」が4.7%など（問25） →視覚障害、肢体不自由、内部障害は「移動支援」、聴覚・言語障害、発達障害、高次脳機能障害は「コミュニケーション支援」、知的障害、精神障害は「居住の場」が第1位 18歳未満は「短期入所」、18～39歳は「居住の場」、40歳以上は「移動支援」が第1位 サービス利用で困ることは「情報が取得」が16.7%、「手続き」が10.4%、「量」が9.4%、「利用料」が7.3%、「内容」が5.9%、「相談先」が3.9%など（問24） もっとも主たる障害が「難病」の人は2.3%（問4） 医療的ケアは「排泄」が3.8%、「栄養管理」が2.4%、「呼吸管理」が2.2%など（問6） <p>【課題】・本人・介護者の状況をふまえて、ニーズに応じたサービス提供をすすめるとともに、内容の充実、情報提供や相談、手続きなどの利用支援が求められる。 ・難病や医療的ケアが必要な人、発達障害、高次脳機能障害の人などのニーズをふまえたサービスをすすめていく必要がある。</p>	3F～H
	<p>(2)居住の場の確保の推進</p> <p>1)地域自立生活のための居住の場の確保 2)施設入所支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護者ができなくなったときの暮らし方は「グループホーム・福祉施設」が20.5%、「自宅」が15.8%（「まだ考えていない」が26.3%、「どうすればよいかわからない」が13.8%）（問13） →知的障害では「グループホーム・福祉施設」が48.2% 今後3年間の住まい方は「グループホーム」が2.4%増、「福祉施設」が0.4%増、3年後以降は「グループホーム」が3.8%増、「福祉施設」が4.0%増（問14） <p>【課題】・自立や親亡き後の生活の場として、グループホームや福祉施設を希望する人が多い。</p>	3I～J
	<p>(3)経済的安定のための支援</p> <p>1)年金・手当等の充実 2)経済的負担の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉サービス等の利用で困ることで「利用料の負担が大きい」は7.3%（問24） →現在なんらかのサービスを利用している人では10.9% 介護の経済的負担が大きい人は12.2%（問12）、医療費の負担が大きい人は15.3%（問18）、社会参加活動の経済的負担が大きい人は12.3%（問33）、外出の移動の経済的負担が大きい人は17.8%（問34） 優先的に取り組むことで「経済的な支援」は40.6%（問41） <p>【課題】・福祉サービスや医療の利用、社会参加等を促進するうえで、経済的な負担への配慮が求められている。</p>	3K～L
3. 権利擁護に対する支援の充実	<p>(1)権利擁護に対する支援の充実</p> <p>1)権利擁護をすすめる体制づくり 2)権利擁護に関する相談・支援の推進 3)後見的支援の充実 4)虐待防止の取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 差別や嫌な思いの経験は「よくある」が8.5%、「たまにある」が28.7%（問38） →「よくある」と答えた人は、発達障害が15.4%、知的障害が13.9%、精神障害が10.2%、高次脳機能障害が10.0% 差別や嫌な思いをする場面は「外」が22.7%、「買物や外食」が16.9%、「交通機関」が15.0%、「医療機関」が9.4%、「職場」が5.6%、「公共機関」が5.3%、「自宅」が4.6%、「学校」が4.5%、「福祉サービス」が3.9%など（問38） →18歳未満では「学校」は21.1% 虐待や権利擁護について現在相談したいと思っている人は2.1%（問21） 成年後見制度を「すでに利用している」人は2.6%で、「今後利用したい」と思う人は11.9%（問40） →知的障害では24.7%、発達障害では14.4%、精神障害では9.5% <p>【課題】・さまざまな場面での差別的な事象が起っており、虐待や権利擁護についての相談を必要としている人もいる。 ・成年後見制度の利用希望する人は、現在利用している人よりもかなり多い。</p>	3M～P

計 画 項 目	ニ ー ズ 調 査 の 結 果 と 課 題	記号
計画推進のための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 優先的に取り組むことで、障害者支援の担い手づくりは28.6%（問41） <p>【課題】・さまざまな支援のニーズに対応するため、担い手づくりも求められている。 ・優先的に取り組むこととしてあげられた回答の背景等を分析し、優先度をふまえた取り組みを推進していく必要がある。</p>	4A～C